

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:46 (61%) ②:25 (33%) ③:4 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:48 (64%) ②:25 (33%) ③:1 (1%) ④:0 (0%) 未回答:1 (1%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:34 (45%) ②:36 (48%) ③:4 (5%) ④:0 (0%) 未回答:1 (1%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:37 (49%) ②:37 (49%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (1%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:34 (45%) ②:34 (45%) ③:4 (5%) ④:0 (0%) 未回答:3 (4%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:54 (72%) ②:21 (28%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:50 (67%) ②:22 (29%) ③:1 (1%) ④:0 (0%) 未回答:2 (3%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:41 (55%) ②:28 (37%) ③:5 (7%) ④:0 (0%) 未回答:1 (1%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:31 (41%) ②:40 (53%) ③:2 (3%) ④:0 (0%) 未回答:2 (3%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:33 (44%) ②:41 (55%) ③:1 (1%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B (問 14~18) : FD 活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。(複数回答可)

①他教員の授業参観： 18 (24%)

②学内外の FD 講演会等への参加： 32 (43%)

③他大学の FD 活動の視察： 7 (9%)

④その他： 23 (31%)

・・・「FD 関連資料の閲覧」、「他の教員との意見交換」2 クラス、「utilized method suggested by another teacher」、
「学会参加 / 学会発表」6 クラス、「小中高の授業の参観や研修会への参加」、
「中学校のスーパーティーチャーの授業見学」6 クラス、
「特別支援学校の授業参観、中学校英語教員の研修参加」、
「International research」3 クラス、「リーディング指導における他大学の取り組みに関する資料調査」、
「自分自身の TOEIC 受験」

未回答： 18 (24%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。(複数回答可)

①他教員の授業参観： 36 (48%)

②学内外の FD 講演会等への参加： 39 (52%)

③他大学の FD 活動の視察： 15 (20%)

④その他： 18 (24%)

・・・「FD 関連資料の閲覧」、「他の教員との意見交換」2 クラス、「discuss methods other teachers are using」、
「学会参加 / 学会発表」6 クラス、「小中高の授業の参観や研修会への参加」、
「市内の中学・高校の授業見学」4 クラス、
「International research」3 クラス、

未回答： 17 (23%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：37 クラス（順不同）

[1] 語学資料室の整備にともない、多読をより積極的に、かつ体系的に導入した。また、全回グループ活動を行い、毎回個々の学生が発言する場を作るべく試みた。教材も、より学生の専門（農学）に近い内容のものとし、学生の本来もっている関心を語学に結び付けようと試みた。・・・2 クラス

[2] 昨年度は同時間帯に工学部の学生を対象に同一科目を担当した。本年度は、農学部学生の専門性を考え、教材の選択を行った。・・・2 クラス

[3] 学生の専門（農学）により関連のある英語教材を使用することで、学生の関心を引き出すようにした。また自習時間確保のため、(1)スピーキング・リスニングを主に練習する自習教材を使用し、(2)予習のポイントを示したワークシートと関連する YouTube ビデオのアドレス（QR コード）を事前配布する、ということをした。・・・2 クラス

[4] 昨年、授業前後の学修所要時間が少なかったため、リスニング、スピーキングの両方で学修時間の確保を行った。

[5] これまでテキストの暗唱をさせていたのが、少々単調に思われたので、今回、ペアになってもらい、ある場面を演じる

活動を入れた。これは、個人での暗唱よりもよかったが、今後はもうすこし練習の時間を確保してあげたい。

[6] 原稿なしのスピーチの練習を増やした。

[7] 授業外での学習量を増やすため、前時の授業後に考えたこと、関心を持った出来事、興味を持ったこと、などについて「ジャーナル」としてA4用紙1枚程度、毎時間に提出させた点と、それを学生同士で読みあって、コメントを書かせた点、この2点です。

[8] 昨年度は農学部と工学部の両方を担当したが、今年からは工学部だけの担当となった。ライティングの授業は日本語からの英訳や自由英作文では英語力の劣る学生がついて来られないため、『英借文』方式を取り入れた。・・・2クラス

[9] 昨年度は農学部と工学部を担当したが今年度は工学部だけの担当となった。話すことを一から作っていくと、英語力に劣る学生は作ることに時間がかかり過ぎ、結局何も話すことがないまま終わってしまうので、スピーキングにたっぷり時間が取れるよう、会話のテンプレートを利用する方式にした。・・・2クラス

[10] 宿題以外にTOEICよく出る単語を暗記するように課題を出しました。さらに、自主学习のため、e-learningを追加しました。・・・6クラス

[11] 授業内使用スライドとともにハンドアウトのアップロード・・・2クラス

[12] コミュニケーションにおいて、「伝える」スキルアップのため、スモールグループ・プレゼンテーションを実施・・・2クラス

[13] 学生のレベルを考慮した教材を選択・・・2クラス

[14] 難しいとの指摘があったビデオ教材を大幅に変更した。また、ビデオ教材のみでなく、同じ専門（農学）を専攻する外国の大学生と、「環境」についてのオンライン協同学習を組み込んだ。さらに、学術英語の基礎として、書き言葉やプレゼンテーションの構成（エッセイライティング等）についての授業を行った。また、本学で行われた海外ゲストによる「英語講義」の録画に基づくビデオ教材を使用した。・・・2クラス

[15] 各プレゼンテーション形式の重要ポイントを理解しやすいよう改善した。

[16] 留学生を招いた授業（2週）の際、ほぼ全ての進行を学生に担当させたが、その比率を昨年度よりも引き上げたこと。

[17] 問題を解き、それに対する解説だけで終わると、よほどモチベーションの高い生徒しかついて来ない。どんな学生でも、90分間寝ることなく授業に参加できるよう、何とかアクティブラーニングの要素を取り入れたかった。一つ一つの会話文が短いテキストを探し、90分間の中で丸暗記し、かつその会話を使ってみるような仕掛けを施し、実際に使ってみて生じた疑問に対して解説する、というスタイルにすることができた。・・・2クラス

[18] リスニング、文法事項の補助教材（プリント）を増やした。

[19] 昨年度と比べ、学力差が小さくなったので、より効果的な授業を行うことができました。

[20] 自主学习時間を増やす目的で、毎週課題シートを出しました。

[21] I'd prefer to discuss any such content with fellow teaching professionals face-to-face, not through an anonymous questionnaire which will be likely be ignored by bureaucrats.2クラス

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 50クラス（順不同）

[1] 多読は多くの学生の英語に対する興味を新たにできたと思う。毎回学生にはノートPCを持参してもらい、グループ活動とノートPCとインターネットを組み合わせることで、教室の中でダイナミックなコミュニケーションを作り出すことができた。毎回教材づくりに追われたため、個々の学生への対応は十分とは言えなかった。ただ、最終評価では、個人の学習内容や学習成果を前年度より反映できたと思う。・・・2クラス

[2] 毎回学生にノートPCを持参するようにしてもらった。グループ活動と組み合わせることで、教室の中で、教員と学生、学生同士のダイナミックなコミュニケーションが可能になったと思う。自習教材はおおむね学生に好評だったと思う。昨年の実践より、課外の学習時間も増えたのではないかと思う。教室内のwifi接続は、もう少しつながりやすくなるよう、改善して頂けたら有難いと思います。・・・2クラス

[3] 本科目は、学生の主体的な学びをサポートすることに主眼を置いている。各々の興味関心に応じたトピックで課題に取り組むため、学生の質問や疑問は多様である。それらに応えられるよう、メールでの対応または研究室での対応を随時行っている点は評価できると思われる。授業前後の学修時間の確保を徹底させるべきであったことが反省すべき点である。

[4] 本科目は、学生の主体的な学びをサポートすることに主眼を置いている。学生は発表のための準備中に様々な疑問を抱えるが、それらに応えられるよう、メールでの対応または研究室での対応を随時行っている。授業前後の学修時間の確保を徹底させるべきであったことが反省すべき点である。

[5] 本講義は英語を用いた実践的な技能育成を目的としているため、リスニング、スピーキングの両技能に焦点を当て、充実させたことは評価できる点だと思われる。一方、技能定着のため、より細かな指導が必要だったのではないかと反省すべき事柄もあり、次回に生かしたい。・・・2クラス

[6] クラスはリーディング・ライティング主体だったが、基本的に自宅学習とし、授業中は極力声を出して読む、ペアやグループでのディスカッション、アクティビティ形式で発表することに力を注いだつもり。

[7] 評価できる点：

- ・テキストは好評だった。
- ・ペアワークができたのは良かった。
- ・席をグループごとに指定したことで、学生間の交流が進んだように思われる。
- ・ネームプレートでの出欠調査は効率がよくて、よかった。
- ・英文記事要約レポートの作成により主体的な学習を促すことができた。

反省すべき点

・初期にペアワークで演じる活動を入れたが、まだ物語の内容を知らないままに演じる場面の選定をすることになり、無理があった。今後は、演じる場面をこちらでいくつか指定することを考えている。

[8] 授業初日と最終日のエッセイを比較すると、ほとんどの学生が語彙数が増えたり内容が充実したりしていたので、成果は得られたと考える。

[9] 上述したジャーナルとピア・レビュー（設問16の回答[7]）は、学習習慣を付けさせることと、仲間の考えや興味関心に触れることができ意欲的にコメントを書いていたので大変効果的であったと思います。

[10] This was the first time to use this cooperative or active learning style where students in groups prepare presentation projects, where they need to work among themselves while producing great quantity of English output through research and writing whose aim is spoken presentation. This worked very well, although next time I will emphasize more online research using laptop computers in class.

[11] 一部の学生が授業のレベルについて来られない事態を避けるため、『英借文』スタイルで英語ライティングを取り入れた。英文ビジネスレターのサンプルが載っている本をテキストとし、様々なシーンを設定してテキストのビジネスレターをテンプレートとして使い、必要な情報だけを入れ替えて書くトレーニングをした。リーディングをしなければ課題に取り組めない設定にしたところ、リーディング→ライティングの流れができ、リーディング力も強化できた。センター試験の点数はあまりよくないクラスだったが、TOEICの平均点はそこまで悪くなかったため、授業の組み方によっては特にTOEIC対策なくてもスコアを改善することができるといういい事例になった。・・・2クラス

[12] 自主学習のため、e-learningをするように呼びかけましたが、やはり何人かがしませんでした。今後、宿題として、平常点に課すようにいたします。・・・6クラス

[13] 授業外の学習時間を増やすしかけを工夫する必要があると反省します。

[14] ①英語力で活動への参加に極端な差がつかないこと、②使える英語表現を増やすこと、③英語で話せる話題を増やすことを念頭に、スピーキングができるような活動を組んだ。質問と応答文の事例が豊富なテキストを選び、質問文に対する応答で自分の考えと一致するものがあればそのまま使うことを認め、とにかく実際に話してみることに時間を割いた。最初は戸惑っていたが、回を重ねるごとに話を組み立てる時間が短縮され、自分でアレンジできる場所も増えてきた。一部の学生は自宅で事前に自分の言いたいことを準備してくるようになり、こちらから指示することなく予習を促す効果もあった。・・・2クラス

[15] 学内海外研究者との交流

[16] 看護科を担当するのは初めてだったので、学生の特色やレベルなど把握できないままのスタートだったが、大きなズレはなく進めることができたと考えています。

[17] 学生同士のインタラクションを多く設けた点は、評価出来ると思います

[18] 会話をする上で、必要な文型、語彙をしっかりと定着させ、最終的な運用へとつなげたことが評価できる。医療英語以外にも、日常的なことを話せるように時間を設けて練習したが、文法など細かいところまでは指導できなかったため、今後の課題としたい。

[19] 学期の途中で担当教員が変わることになったが、前任者のシラバスを引き受けて、英語を話す患者さんとの会話を念頭に会話練習を行い、学生のみなさんが最終的に運用できるようになったことは評価できる。

[20] シラバスに記載してあった医学用語について、やや時間が不足したこと・・・2クラス

[21] 基礎となるリーディングに力を入れ定着の為できるだけ毎日小テスト（10分程度）を実施した。次回はもっと話す機会を増やしたい。

[22] 専門を同じくする学生同士の協同学習は、いわゆる語学のみならず、専門分野や異文化的なことも含めて、いろいろな学習の可能性があると思われた。実際に多くの学生が前向きに取り組んでいたと思う。相手校との調整をより綿密に行い、改善していきたい。また、「学術英語基礎」として、科目全体により一貫性を保てるよう、シラバスを見直していきたい。・・・2クラス

[23] 基礎固めを一番に考えたクラスにしたが、もっと学生に話す機会を増やすべきだった。

[24] 日本人学生および本学留学生双方から、この授業で交流できてよかったと声が挙がっている点は評価できるが、より留学生と話す機会を多く持てるような工夫を行っていきたい。・・・2クラス

[25] 記事を読んで内容を理解する作業を自宅学習とし、授業中は、ペアワーク・グループワークの形で内容の確認、及びディスカッションやディベートの形式の発展学習で持って行けた点は良かったと思う。但し、理解度の不十分な学生に対するケアがもう少し丁寧な形で必要だった点は反省。（2、3名難しいとコメントした学生あり）

[26] 授業の目的の一つに TOEIC のスコアアップがあるが、英語力そのものが劣る学生がほとんどで、TOEIC の問題を解けるレベルにないのが正直なところである。・・・2クラス

[27] 今回初めて私用した金星堂のテキストにはデジタル学習環境をクラスに導入できるアプリがあり、はじめに全員に登録してもらいましたが、上手く使いこなせなかったのが心残りです。

[28] 学習記録シートを毎週提出させ、コメントをつけて返却することで、ここの学習状況、課題点を把握し、アドバイスするとともに、コミュニケーションをはかるようにしました。

[29] 上記課題（学習記録シートを毎週提出させ、コメントをつけて返却すること）が多すぎて、学生も教員も浅くしか扱うことができなかったことを反省しています。

[30] 文法・語彙問題である Part5 では、はじめに文法解説→問題解く→ペア or グループでなぜその答えを選んだか&なるのかの理由を話し合ってもらい、お互いに相談しながら講師に説明する形を取った。そうすることで感覚で解いていたものを、理論的に理由を付けて文法を理解してもらう工夫をしました。

[31] 英語でニュース番組を制作するという、はじめての試みであったため、2番組しか実施できなかった。個人指導の充実や完成度を高める工夫などが今後の課題である。

しかし、カメラの前でニュース原稿を読み上げたり、出来上がった番組を視聴したりする活動は、学生にとって実に新鮮であり、その表情から、英語使用する楽しさを十分味わえたものと思う。

[32] 評価出来る点

- ・プロジェクト型の授業を始めて担当し、学生の主体性を重視した活動となったのはよかった。
- ・思いのこもったプレゼンを各自完成させることができたのは良かった。

反省点

- ・予定では2回のプレゼンを予定していたが、プレゼンの完成度を追求したため、1回だけのプレゼンとなってしまった。
- ・予定では、2回目のプレゼン準備をグループにておこなうはずだったが、それができなかった。
- ・プレゼンの原稿の添削が間に合わず、十分に修正できないところがあった。

[33] I'd prefer to discuss such issues face-to-face with the dean of faculty, not on a questionnaire that no one is likely to read or respond to.

[34] I'd prefer to discuss any such content with fellow teaching professionals face-to-face, not through an anonymous questionnaire which will be likely be ignored by bureaucrats. . . . 3 クラス

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 19~21) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 64 (85%) ②いいえ： 2 (3%) 未回答： 9 (12%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 48 (64%)
- ②読んで理解する： 52 (69%)
- ③自分の考えをまとめて話す： 43 (57%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 40 (53%)
- ⑤討論する： 28 (37%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 29 (39%)
- ⑦その他： 7 (9%)

・・・「反応する」、「会話相手から情報を引き出す」2 クラス、「新出表現を実際に使ってみる。」2 クラス、
「ペアワーク」2 クラス

未回答： 10 (13%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 50 クラス（順不同）

[1] 多読のセッションの際には、自分が面白いと思った洋書(graded readers)について、「わかりやすく」「面白いと思ったポイントが伝わるように」説明する機会を設けた。また、毎回のグループ活動では、グループ内で見解をまとめる作業を含めるようにした。・・・2 クラス

[2] 【活動内容の流れ】個々の学生は、それぞれの興味関心に基づく英文記事を探し、読んで理解し、記事を通して自らの考えや思いを伝える活動を行っている。クラスのメンバーは、発表者が選んだ記事を読み、発表と記事へのコメントを書き、発表者へ渡す。発表者は全てのコメントを読み、コメントへ返信(5つ選出)を行う。言葉(英語)を学ぶ授業＝コミュニケーションと捉えており、話して伝える力、聞く力、書いて伝える力の育成がコミュニケーション能力の育成になると考える。・・・2 クラス

[3] 【取り組みの内容】

・事前に日々の生活や、考えについての Question を提示し、翌週、ペアになり英語で話す(1 分間)。個々の考えを伝え、聞くという活動を 7 回繰り返した。

・ペアになり課題に沿ってスキットを作成し、発表し合った。(合計 2 回)

どちらも回を追う毎に意欲的に取り組む姿が見られた。

・・・2 クラス

[4] アクティビティを多用した訓練形式の授業

[5] 毎回のグループ活動では、グループ内で見解をまとめる作業を含めるようにした。

[6] ・テキストを読んだ感想の発表を各自お願いした。また、それへのコメントもさせることで、コミュニケーションを成立させた。

・自分の意見を発表する場を設けた。

・グループでの話し合いの場も設けた。

[7] 授業のほぼすべてがコミュニケーション能力の育成に関わると考えている。

[8] 英語でのスキット(コミュニケーション方略を取り入れたもの)をグループで発表させた。聞き手には、内容、音声、態度、協力の4つの観点で評価させた。英語での発表力と聞き取る力をつける活動を行なった。

[9] This was a project-presentation method that required students to make and write proposals for a group presentation (4 students); discuss and agree on one of the proposals; research together to find content for the topic chosen; mutually write a script to be spoken later in front of class as a presentation; creatively arrange a poster to aid the presentation; listen to each group's presentation and grade those groups based on criteria such as poster quality, speaking, posture, sounds, etc.

[10] 「伝えたいことが正確に相手に伝わる文章を書く」というコンセプトで英借文に取り組んだ。一つの形式のビジネスレターをテンプレートとして使うことで、様々な状況に対応できることを実践を通じて学ばせていった。また、英語で提供された情報から自分に必要なものを抜き取り、適宜、編集して使うことも徹底的にトレーニングした。・・・2 クラス

[11] グループでテーマは自由なプレゼンテーションに取り組んでいます。また、海外での境遇や緊急事態を想定し、短い skit を作成して、プレゼンテーションを行う。・・・6 クラス

[12] 課題文の音読に力を入れた。・・・2 クラス

[13] 日本語でも英語でも、グループ単位での協同作業をベースに行いました。

[14] 英語による質疑応答だけは初期の段階から慣れさせておかなければならないという方針で、英語力が劣る学生でも質問できるようになるよう、グループによる質疑応答活動を取り入れた。様々な学生と組んでグループ活動することで、質問の作り方にもなれ、定期試験ではアドリブで質問するという課題を全員が達成できていた。・・・2 クラス

[15] 学内海外研究者との交流・・・2 クラス

[16] 「質問する力(積極性・英語力)」の養成を目標とすることを唱い続けました。

[17] クリップ映像・スクリプトの使用

[18] 会話相手との情報交換を成功させる方法のひとつとして、いかに上手く相手の話を聞くかがあげられる。しかし、学生のみなさんは、どのように質問するのかが分かっていないことが多く、本授業ではその点を中心に学習を進めた。その人の状態、習慣、経験など、いくつかのパターン別に文型を提示し、その型を繰り返し練習することで定着を図った。最終的には、外来での問診に必要な文型、また語彙を覚え、運用することができるようになった。

[19] スモールグループ・プレゼンテーションを実施・・・2 クラス

[20] 学期初めはなかなか会話が長続きしない様子が見られたが、相手への質問の仕方などを文型別に練習していったところ、学期後半では、上手に質問をし、話題を変えながら会話を継続させることができるようになってきていた。

覚え方としては、相手の現在の状況、習慣、経験など、主な質問事項を文型別に分類し提示し、それぞれを実際の間診票を使いながら、ロールプレイを通して学び、定着させていった。

[21] グループ単位で Unit で扱った事柄を話し合わせた。

[22] 5週間、海外の大学生と主にライティングによるオンライン交流を行った。リハーサルで終わってしまう英語の授業で、「実際に使う」場をふくめることができた。

[23] 主にライティング中心のオンライン協同学習において、海外の相手に「実際に」表現する機会を設けた。スカイプによる口頭での表現の機会も設けた。

[24] 先ずは、多読とリスニングを日常的にできるよう NA2 の自宅課題を課した。リーディング50units リスニング50units

[25] 【取り組みの内容】

①留学生との交流によるプレゼンテーションとディスカッション

- ・日本人学生は、プレゼンテーションの準備を行う(グループ)
- ・留学生が3回の授業に入る。1回目は留学生のプレゼンテーションとディスカッション
- ・2-3回目は日本人学生のプレゼンテーションとディスカッション

②日本人学生だけのプレゼンテーションとディスカッション

- ・個々の学生がプレゼンテーションを準備
- ・10人ずつのグループに分かれ、MCを立ててそれぞれがプレゼンテーションとディスカッション、評価を行う

・・・2 クラス

[26] TOEIC は本学の学生にとって難易度の高い試験であるため、問題文を読んだり聞いたりした段階でほとんどの学生がやる気を失い、「いくら勉強してもできるようになるとは思えない」と学習そのものを投げ出してしまいがちである。そのような TOEIC のレベルについてこられない学生でも意欲的に授業に参加できる仕掛けを随所に盛り込むことで、定期試験まで何とか学生の積極的な参加を促すことができた。・・・2 クラス

[27] TOEIC 問題文には英語の実用的な表現が多く、それを実際に発話させることで会話力養成を意識しました。

[28] マス・メディアを通しての英語コミュニケーション、という設定で活動した。

[29] 皆の前でのプレゼンをさせる授業であったが、そのために、何度もリハーサルをさせて、問題点を他の学生や教師から指摘されるような時間をもった。そのおかげで、最終プレゼンはかなりよいものとなった。

[30] Nothing of note because nobody would read it anyway I imagine. ...3 クラス

[31] I'd prefer to discuss any such content with fellow teaching professionals face-to-face, not through an anonymous questionnaire which will be likely be ignored by bureaucrats. ...3 クラス

D (問 22~25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 9 (12%) ②いいえ： 42 (56%) 未回答： 24 (32%)

問 22 で「はい」の方は問 23~25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1~5回： 6 (8%) ②6~10回： 0 (0%) ③11~15回： 3 (4%)
未回答： 66 (88%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 6 (8%) ②政治・経済・産業： 8 (11%) ③自然環境・フィールド体験： 4 (5%)
④その他： 3 (4%)・・・「特に限定しない」、「all topics relevant to Japanese culture as found in Miyazaki were allowed as presentation topics」、「Promotion and international relations」
未回答： 66 (88%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 6 クラス

[1] こちらから指定するわけではないが、プレゼンテーションの諸テーマとして学生が宮崎のことを選ぶ場合がある。

[2] 地域のホットな話題を英語を通して伝える活動を行った。

[3] 地域の素材を英語でのコミュニケーションに取り入れてスキットをつくらせた。4人のグループでスキットをつくるが、2人は必ず英語母語話者という設定で日本文化や地域のことについて、その人たちに英語で説明するという活動を行なった。

[4] 専門（農学）を同じくするインドネシアの大学生と、英語を使って、お互いの地域の特色、自然環境、農業に関するトピックや課題などについて、紹介し議論することを行った。・・・2クラス

[5] If you really wish to know details, contact me directly for input, not through an anonymous questionnaire.